

# 高温・干ばつ対策特報 2018・7月

平成30年7月6日  
JA 中野市営農センター

6/29 に関東甲信地方で観測史上最速の梅雨明けとなり、その後も4日連続して猛暑日が続く等、平年を大幅に上回る気温帯で経過しています。この時期の異常高温は、果実の日焼けやハウス内の高温障害等が広い範囲で発生することが心配されます。ついては、下記を参考に対策を講じてください。

中野市田麦地籍 (長丘事業所裏)		上旬		中旬		下旬		月平均・合計		コメント
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
6月	平均気温	19.5	18.3	18.5	19.8	22.5	21.1	20.2	19.7	平年比+0.5
	降水量	2.0	13.7	19.5	30.2	18.0	54.2	39.5	98.1	平年比40%

特記：①梅雨明け：6/29（昨年比-7日、平年比-22日） ②月間降水量：平年比40.2%（極端な乾燥）  
③梅雨期間（6/6～29）合計積算38.5mm（極小） ④4日連続猛暑日（6/29～7/2）\*6/30 35.9℃

## 1. 共通

- ① 農作業中の熱中症を予防するため、炎天下の長時間に渡る作業はできるだけ控えてください。
- ② 農作業中は、帽子等の日焼け防止対策を万全にするとともに、十分な水分補給と休息時間を確保し、体調がすぐれない時は作業を中止してください。

## 2. 果樹

- ① **日焼け防止対策**：主枝・亜主枝等の背面部分は日焼け果が発生しやすい。徒長枝は全て切らずに、間引く程度か、30cm程度残して切除して、「日焼け防止枝」を設ける。葉がない部分は、白塗剤等で日焼け防止対策を講じる。
- ② **新梢整理**：日焼けが発生しやすい南西方向の樹冠外部の切除量を減らし、日焼けが発生しないように配慮する
- ③ **かん水**：天候やほ場の水分状態、土壌条件にあわせて、適宜かん水を行う。尚、かん水設備のない地域では土の湿潤状態を確認し、かん水が必要な場合は、樹冠下を中心に、ほ場面積の60%程度を目安にかん水を行う。かん水後は、蒸散防止のため、敷きワラ・マルチ等を行う。
- ④ **りんご**：園の南～西側の樹体を寒冷紗等で覆うと、日焼け果の発生が軽減される。尚、極度の乾燥を受けると果実肥大が抑制され、葉焼けが発生することがあるので、定期的にかん水を行う。
- ⑤ **ぶどう**：日当たりの良い所（主枝延長枝や若木、また弱樹勢樹など）中心に日焼けが発生しています。袋かけの際は傘かけを必ず行う。日当たりの良い場所では遮光率の高いクラフト笠・タイベック傘を利用する。併せて、果粒肥大の重要な時期であるので、適宜かん水に努め粒肥大促進に努める。水まわり期の直前に水分ストレスを受けると縮果症の発生が心配されます。極端な新梢管理は水回り期以降に実施し、併せて適宜かん水を実施する。
- ⑥ **もも**：日焼け果の発生が心配される場合は、除袋する2～3日前に袋の下部を破り、馴らしてから除袋を行う。また、ピーチ袋等のワックス袋は、日射により高温障害が発生する場合がある。高温が続く場合は、ワックス袋の下部をあげるか、袋を外すなどして対応する。収穫期を迎えた品種では、高温により成熟が進むため、果肉硬度を参考にしながら適期収穫を行う。尚、中晩生品種では高温により成熟が遅れる場合がある。
- ⑦ **ナシ**：葉焼け症状（葉に黒色斑点や黄変等）が発生する場合がある。高温乾燥は果実肥大や日焼け果発生への影響が大きいので、定期的にかん水を行う。
- ⑧ **害虫対策**：高温乾燥によりハダニ類・シンクイムシ類・アザミウマ類等が増加しやすいため、適期防除に努める。散布に際しては、特にハダニ類は防除死角が生じないように注意する。詳しくは、各特報を参考にしてください。

## 3. 野菜・花き・水稻

- ① 急激な気象変化は、大きなストレスになるので、栽培品目の生育ステージや土壌条件等に応じて、かん水などの適正な管理を行う。
- ② ハウス栽培で、強日射が予想される場合には、日焼けや着果不良を防止するため、寒冷紗や遮光資材を用いて、できる限りハウス内の温度低下に努める。
- ③ 高温乾燥時にはハダニ類・アザミウマ類が増加しやすいため、適期防除に強める。詳しくは、各特報または防除暦を参考にしてください。
- ④ **野菜**：カルシウム欠乏対策：高温・乾燥が続くとカルシウム欠乏による生理障害（心腐れ等）が発生しやすいので、かん水を適宜行い、カルシウム資材の葉面散布を行う。また、不良果は、早期に摘果し、株の負担を少なくして草勢の維持を図る。古葉や病害葉は摘除する。きゅうりでは、芯焼けが発生しています。15cm下のところで摘芯してください。
- ⑤ **水稻**：生育は前進傾向であり、出穂期は平年より数日早まると予想される。幼穂形成期を確認して、適期・適量の追肥を行う。また、干ばつ後には、ウンカ・ヨコバイ類が発生しやすいので、発生状況を見て適期に防除を行う。
- ⑥ **花き**：収穫は午前中の涼しい時間帯に行う。収穫ネットのまま花を積んでおくと熱がこもるため、長時間積んだままにせず、早めに水上げを行う（しおれ防止）。アスター葉やけ(灰色かび病)が散見されている。定期防除間隔が空かないように実施する。